opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 29

スペイン内戦中の聖ホセマリアの最大の心配事はメンバーたちの消息でした。1936年の秋にホアン・ヒメネス・ボルフ・アルバス、アルバス、サーマリー、ボーマリー、ガス・ガス・ガルニカ(チーンが逮捕されます。

2023/11/24

過去の記事はこちらから

スペイン内戦中の聖ホセマリアの最 大の心配事はメンバーたちの消息で した。

1936年の秋にホアン・ヒメネス・バ ルガス、アルバロ・デル・ポル ティーリョ、ホセマリア・エルナン デス・ガルニカ(チキ)が逮捕され ます。学生寮の寮長だったリカル ド・バリェスピン、学生であったペ ドロ・カッシアロとパコ・ボテー リャはバレンシアにいました。神父 が直接会うことができたのはアルゼ ンチン国籍を持つイシドロだけでし た。イシドロは外国人の身分を利用 してマドリード市内を歩き回り、聖 ホセマリアとメンバーたちや彼らの 家族との連絡を取り、彼らを励まし 慰めていました。神父はどこにいよ うが彼らのことを一時も忘れず、絶 えず祈っていました。

刑務所の生活は残酷で死と隣り合わせでした。捕虜たちはしばしば夜間

に連れ出され処刑場で銃殺されまし た。しかしメンバーが奇跡的に助か ることが一度ならずありました。例 えば、チキは処刑場に向かうトラッ クに乗せられたとき、誰かが自分の 名前を呼ぶのを聞きます。彼は降り るように命令され、トラックは処刑 場に向かい、彼は刑務所に戻ること ができました。ホアンのいた刑務所 では廊下ごとに捕虜たちを銃殺する ために連行していました。ホアンの 番が来ました。トラックが来て捕虜 たちは順番に乗っていきましたが、 彼の4人前までの人を積んで行って しまいました。トラックは戻って来 ず彼は命拾いをしたのです。

アルバロはもと学校だった刑務所の 聖堂に詰め込まれていました。捕虜 の数は約400人。あるとき民兵が祭 壇に上って横にあった聖人像の口に タバコを突き刺しました。アルバロ の近くにいた一人がそのタバコを取 り除くと、彼は即座にピストルで撃 ち殺されたのです。アルバロも民兵 にピストルを頭に当てられ「お前は 司祭に違いない。なぜならメガネを かけているからだ」と言われること がありました。いつ殺されても不思 議ではなかったのです。

しかし、ホアンもアルバロも1937年 1月にはっきりした理由なしに釈放 されました。チキだけがバレンシア の刑務所に移送されたが、彼も7月 には釈放されます。ホアンは「我々 全員が奇跡的な仕方で命を救われる ということが次々と起こった」と言 います。彼らはこれを聖ホセマリア の祈りのおかげと考えました。

こうして1937年の春、ホアンとアルバロが聖ホセマリアの避難所に合流しました。それはホンジュラスの公使館でした。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-29/ (2025/11/21)